

全国高校選抜大会に参加して

2015. 03 大分県協会 堀川 智宏、内海 秀昭

標記大会に審判員として参加しましたので、ミーティングや審判団との意見交換での内容等を報告します。

【大会概要】

- ・参加大会 第38回全国高校ハンドボール選抜大会（愛知県豊田市）
- ・競技日程 H27.3.25～H27.3.30 うち、1回戦～3回戦を担当



メイン会場ではコート3面が設置され、勝ち上がりによる試合数の減少にあわせて中央のコートを観客席にするなど、とても充実した運営でした。

【レフェリーミーティングでの確認事項（全体に対して）】

- ※大会を迎えるにあたりレフェリーとしての使命を果たすための準備をしてきたと思うが、大会中も準備を怠らないこと。ゲームではレフェリーの20の約束を常に意識しておくこと、全国大会レフェリーとしての行動、言動について助言を受け確認した。
- ・ゴールエリア際・6mラインの攻防ではオフENSE、ディフェンスとも接触が頻繁に起こる。反則の有無の見極めを的確に。オフENSE、ディフェンスとも平等に
 - ・エリア際で反則があった際の不正なゴールを認めない（着地シュート等）。ディフェンスからのプッシングの後の4歩目などは7mスローの判定基準を正しく適用すること（フリースローまたは7mスロー）。
 - ・ゴールレフェリーの位置取りは常に研究してほしい。トランジションに対する見方、位置取りは移動してペアで工夫してほしい。
 - ・視野外からのアタックについては最低2分間退場を念頭に判定
 - ・7mスローの際は、シューターがポイントに位置取った後は、キーパーは交代出来ない。キーパーがポジションを外したら罰則、交代は認めない
 - ・反則が生じた場合は 笛を吹く→方向指示→必要に応じてジェスチャー
 - ・アドバンテージルールの理解、3歩3秒を確保しつつ、危険なプレーは排除する。

- ・シミュレーション（相手を欺くプレー）の排除には感謝している。

【レフェリー評価および助言等について】

- ・各コートに副審判長が配置され、すべての審判員の評価および助言がおこなわれました。

【副審判長より指摘（主に内海に対して）】

- ・丁寧さが足りない。判定は出来て当然。上級審判員はその上でゲームをコントロールしていく。アドバンテージルールをうまく使えていない。
- ・罰則を判定したならば、その理由をジェスチャーで示すこと。ベンチ、観客に伝わっていない。
- ・ゴールのあと、スローオフまでに時間をかけさせない。選手に伝わるように催促する
- ・コミュニケーションを積極的に。選手への話しかけのタイミングは研究してほしい。
- ・ナイスプレーに対して話しかけることも、コミュニケーションのひとつ
- ・笛が CR と GR で同時に吹いた場面が多い 役割分担は明確か？
- ・見た目に派手な接触プレーで、プレーを止めて両チーム選手に語りかけする場面があった。ベンチ、観客は何かあると予想するもの。何かあるなら罰則の適用、または、何もないなら止めずに進めた方がスムーズ。
- ・3, 4人が選手交代する場面でのゆっくりとした攻撃。パッシブプレーの予告合図を上手に使って、スピーディな展開を促したい。

雑談ではあるが、別の副審判長からは、九州からは長崎の金子・川上ペアも参加していたが、判定が的確で無駄な所作がなく、選手とのコミュニケーションも積極的に図り、大分とともに九州の審判員はとてもいい印象を受けた、とお話いただきました。

これは、日ごろの審判員の研鑽の成果があらわれたものであるとともに、九州ブロックの大会等でうけた研修・各審判員からのアドバイスが活かされたものと思われ、九州ブロックの審判団で情報を共有するなどコミュニケーションを図ることの重要性をあらためて認識できました。

上記のようにいただいたアドバイスを教訓に、今後の審判活動がより良い大会運営の一助となれるようさらに精進していきたいと思えます。